



京都大学医学部附属病院 ガイドンス2014

京都大学医学部附属病院ガイドンス



京都大学医学部附属病院

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
TEL 075-751-3111(代)



京都大学医学部附属病院



(平成26年10月1日現在)												
病院執行部	病院長(教授)	三嶋 理晃	病院長補佐(教授)		黒田 知宏							
	副病院長(教授)	平家 俊男	病院長補佐(教授)		椎名 毅							
	副病院長(教授)	稲垣 暢也	病院長補佐(教授)		松原 和夫							
	副病院長(教授)	小西 郁生	病院長補佐(看護部長)		秋山 智弥							
	副病院長(教授)	一山 智	病院長補佐(事務部長)		山木 宏明							
所在地	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54 TEL:075-751-3111 FAX:075-751-6151											
最寄りの交通機関と所要時間	JR京都駅下車 市バス北大路バスターミナル行(206系統)乗車(D2乗り場) 熊野神社前下車											
	京阪電鉄神宮丸太町駅下車 徒歩10分 ⇒交通機関案内94ページをご覧ください											
沿革・特徴	沿革	明治32年7月 京都帝国大学医科大学を設置 明治32年12月 京都帝国大学医科大学附属医院を開設・診療開始 大正8年2月 京都帝国大学医学部附属医院と改称 昭和24年5月 京都大学医学部附属病院と改称 平成10年4月 胸部疾患研究所附属病院(160床)を統合 平成16年4月 国立大学法人化										
	特徴	京大病院の基本理念 1. 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する 2. 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する 3. 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する この3つの理念を基に、診療、研究、教育を中心として事業を展開している。平成16年度からは国立大学法人となり、より一層の経営努力が必要とされるようになり、さらなる経営の合理化を進めているところである。同時に地域の医療機関との連携をより一層図っているところである。平成17年度からは、総合臨床教育・研修センターが発足し、医師・歯科医師のみならず、薬剤師やメディカルスタッフの教育・研修にも力を入れている。										
(平成26年10月1日現在)												
建物敷地	敷地建物	150,088㎡	建築面積	32,560㎡	建築延面積	161,783㎡						
教職員等	医師(医員を含む)		926人									

(1) 病院執行部・病院運営企画室・運営・戦略会議

平成17年4月に病院経営等に関する迅速な意思決定を行うために、病院長、副病院長、病院長補佐を構成員とする病院執行部が設置された。同執行部では、原則として毎週火曜日に執行部会議を開催し、懸案事項の検討を行っている。

また、病院経営に関する情報の収集および分析を行い、経営上の必要な事項について企画、立案し、病院長に提言する病院運営企画室も併せて設置され、病院長の指示のもと、経営分析等の業務に携わっている。

平成20年4月には、病院の運営に関する重大な事案に迅速に対応するために病院長、副病院長、病院長補佐および病院協議会の構成教授若干名を構成員とする運営・戦略会議を設置した。

(2) 副病院長の配置

病院長の職務、職責を補佐するため、平成17年4月から4名の副病院長を配置した。「診療、労務、安全・衛生担当」、「経営担当」、「教育・研究、地域連携担当」、「医療安全担当」の各副病院長は、院内の重要な各種委員会等の委員長としての役割を担うこととなった。

(3) 病院長補佐の配置

病院長から指示された特定事項について、企画立案と連絡調整を行うため、平成17年4月に病院長補佐を配置した(平成26年10月現在5名、うち1名は院外)。

(4) 事務部

総務課、経営管理課、経理・調達課、医療サービス課、医務課、新病院整備推進室において、患者さんの診療に関することから、医薬品、医療機器の購入、建物の維持管理、職員に関することなど、さまざまな事務処理を行っている。

(5) 各種委員会

病院協議会のもとに各種委員会が設置され活動しているが、平成26年度の委員会は次表のとおりである。

各種委員会一覧(平成26年度)		
委員会等		委員長等
管理運営関係	病院協議会	病 院 長
	執行部会議	病 院 長
	運営連絡委員会	小西(郁)教授
	病棟医長・看護師長会議	平家教授
	外来医長・看護師長会議	平家教授
	運営・戦略会議	病 院 長
	チーム医療検討委員会	横出教授
	個人情報保護委員会	坂田教授
	予算委員会	病 院 長
	大学評価部局委員会	坂井教授
	広報委員会	宮本教授
	医療スタッフの配置見直しに関する委員会	病 院 長
	医療問題対策・臨床倫理委員会	一山教授
	医療安全管理委員会	一山教授
	医療事故(事例)調査委員会	一山教授
	リスクマネージャー会議	一山教授
	感染症予防対策委員会	一山教授

8) 患者サービス

患者サービスの充実およびアメニティの向上を図った。

- ①患者の利便性向上のために公衆無線LANサービスを設置し、運用を開始
- ②会計待ち行列緩和(診療科受付での診察待ち時間を利用した保健省資格確認・保険証確認が可能なKIOSK端末をより利用しやすい場所へ移転)
- ③患者案内システムの機能更新
- ④外来アトリウムホールでの映画上映会など各種イベントの開催

9) システム

システムの改善・整備を図った。

- ①総合医療情報システムの改善
- ②電子カルテの機能強化
- ③電子クリニカルパスシステムの機能強化
- ④FileMakerによるDBサービス支援体制強化
- ⑤災害時におけるバックアップシステムの構築

10) 地域連携・広報活動

喫緊の課題として体制の強化および活動の推進を図った。

- ①地域連携の強化(京大関係病院長協議会および京大病院臨床懇話会の開催)
- ②広報活動の強化(オープンホスピタルの開催、京大病院広報の掲載内容の充実)
- ③まいこネットを通じて患者への情報提供を拡大
- ④がん・脳卒中を中心にした地域連携バスを導入し、地域医療機関との連携を強化

(3) 運営企画室

財政や政策をはじめとした医療を取り巻く環境の変化とともに、医療サービスへの国民の期待はますます多様化している。運営企画室は、経営基盤の安定を通じて大学病院としてより高度な医療サービス・医学研究・医学教育の実現を目指す院内のシンクタンクの役割を担っている。

1) 活動内容

- ①経営安定に不可欠となる病床稼働率向上のために、ベットコントロールセンターへの活動支援を行っている。
- ②診療科(部)カンファレンスを企画・実施し、病院執行部からの要請を各部署に伝え、また各部署のニーズを汲み、病院執行部などに伝える役割を担っている。

2) 主な活動実績

- ・病院経営改善計画の立案
- ・病院運営カンファレンスの開催(年1回)
- ・診療科(部)別運営カンファレンス実施
- ・部署からの要望事項の執行部へ検討結果を報告
- ・定例ミーティングの実施(毎週水曜日)

CONTENTS

- 基本理念・患者さんの権利に関する宣言 02
- 病院長挨拶 03
- 沿革 04
- 概要 06
- 組織図 07
- 管理運営体制と委員会 08
- 病院執行部の活動について 09

各診療科のご案内

- | | |
|--------|------------------------|
| 内
科 | ●血液・腫瘍内科 13 |
| | ●糖尿病・内分泌・栄養内科 14 |
| | ●循環器内科 15 |
| | ●消化器内科 16 |
| | ●呼吸器内科 17 |
| | ●呼吸管理・神経睡眠 |

各診療科のご案内

内 科

血液・腫瘍内科

Department of Hematology and Oncology

血液・腫瘍内科長
高折 晃史



難治性血液疾患に対する 最高水準の医療

当科では、疾患や患者背景によらず、すべての患者さんに治癒をめざした医療の提供を目標としている。造血器腫瘍に対し、分子レベルでの病態解析に基づいて最適な治療を選択し、実施している。また、化学療法、放射線療法に幹細胞移植を中心として細胞療法を積極的に組み込むことで、治療成績の向上をめざしている。具体的な取り組みは以下の通りである。

- ①同種造血幹細胞移植を中心とした、造血器腫瘍に対する根治的先進医療
- ②新規治療薬を活用した、造血器腫瘍に対する治癒をめざした治療の開発
- ③成人T細胞白血病など標準的治療法のない造血器腫瘍に対する新規治療法の開発

代表的診療対象疾患

急性骨髄性白血病・急性リンパ性白血病・慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫（ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫）・多発性骨髄腫・成人T細胞白血病・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・発作性夜間血色素尿症・凝固異常症・ユーイング肉腫など化学療法感受性の固形腫瘍・HIV感染症

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

基本的にはすべてのスタッフがあらゆる造血器疾患を診療しているが、主な疾患については、専門外来を設けて患者さんや地域の先生方にもわかりやすい体制を整えた。2012年度までに、骨髄異形成症候群・造血不全、形質細胞腫瘍、成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、造血幹細胞移植、HIV感染症の8つの専門外来がスタートしている。

2013年度の1日平均外来患者数は64人で、初診率は4.6%、紹介率は92.9%であった。2003年に外来化学療法部が開設され、悪性リンパ腫に対する標準的な化学療法を中心として骨髄抑制が高度でない治療を外来で施行し、入院期間の短縮、入院患者総数の増加に寄与している。2013年度は84人の新患を紹介し、900件以上の化学療法を外来で施行した。また、同種造血幹細胞移植に関しては、ドナー専門外来を設置し、ドナーの安全性を十分確保する体制を敷くと同時に、2012年7

月より移植後フォローアップ外来を設置し、病棟看護師による移植後患者の重点的ケアを行っている。2008年よりエイズ中核拠点病院となり、HIV感染症専門外来を設置している。

入院診療体制と実績

造血器疾患を対象に診療する科としては、46床という国内でも有数の病床数を有している。2013年度の延べ入院患者数は373人、平均在院日数35.3日、病床稼働率は95.6%であった。特に、同種移植を34回、自家移植を9回と、造血幹細胞移植を積極的に行っている。

臨床研究の取り組み



最新のエビデンスに基づく 糖尿病・内分泌疾患治療の実践

当科では、糖尿病疾患診療として新たな知見をいち早く日常臨床に取り入れた、最新エビデンスに基づく糖尿病治療を実践し、患者さん中心のチーム医療（医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、検査技師、健康運動指導士）の推進をめざしている。また、内分泌疾患診療としては、各種検査や画像診断法を駆使し、病態の確実な把握、診断および治療を実施している。

代表的診療対象疾患

- I. 糖尿病および糖代謝異常
糖尿病（1型、2型、その他の型）、妊娠糖尿病、低血糖症（インスリノーマ等）など
- II. 内分泌疾患
視床下部・下垂体疾患（先端巨大症、クッシング病、汎下垂体機能低下症、成人GH分泌不全症、尿崩症等）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍等）、副甲状腺疾患（副甲状腺機能亢進症・低下症等）、副腎疾患（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、副腎偶発腫瘍、アジソン病等）、骨粗鬆症、代謝性骨疾患、性腺機能低下症、電解質代謝異常、脂質異常症（高脂血症）、脂肪萎縮症など
- III. 栄養疾患
肥満症、消化吸收障害、消化器疾患術後等、各種疾病に対する栄養管理など

診療体制と治療実績



肝臓から胆道・膵臓・消化管まで 腹部をトータルケア

京大病院内科の消化器疾患のすべてを担当し、肝臓から胆道・膵臓・消化管にいたる幅広い領域をカバーしている。具体的には下記の4分野に大別される。

- ①肝炎・肝硬変・肝がんに対する集学的治療 ②消化器内視鏡を用いた診断と治療
●消化管出血に対する内視鏡的止血術 ●消化管狭窄に対する内視鏡的拡張術
●内視鏡的粘膜下層剥離術を中心とした早期食道・胃・大腸がんの内視鏡的切除
●側視鏡による胆膵疾患に対する経乳頭の診断・治療 ●ダブルバルーン、カプセル内視鏡による小腸疾患に対する内視鏡診断・治療 ③進行消化器がんに対する化学療法 ④炎症性腸疾患に対する集学的治療（特に免疫調節剤を用いた治療）

代表的診療対象疾患

I. 良性疾患

食道静脈瘤、逆流性食道炎、食道アカラシア、胃十二指腸潰瘍、ヘリコバクター胃炎、胃ポリープ、十二指腸ポリープ、小腸ポリープ、小腸血管拡張症、胆道結石（胆嚢結石、総胆管結石、肝内結石）、胆管炎、原発性硬化性胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、粘液産生膵腫瘍、ウイルス性肝炎・肝硬変、自己免疫性肝炎、劇症肝炎、原発性胆汁性肝硬変、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチエット病、大腸ポリープ、小腸血管拡張症

II. 悪性疾患

食道がん、胃がん、十二指腸がん、十二指腸乳頭部がん、胆管がん、胆嚢がん、膵がん、大腸がん、小腸がん、肝細胞がん、消化管悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍（GIST）

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

14人のスタッフを中心に、月曜日から金曜日まで外来診療棟2階の201・260・261診で対応。肝臓疾患・炎症性腸疾患・胆膵疾患に関しては専門外来を設けて対応している。がん診療に関しては、積貞棟1階の外来がん診療部に消化管がんと胆膵がんの専門外来を設け、また臓器別がん診療ユニットとしても胃・食道・大腸・膵がんユニットの中心メンバーとして診療を行っている。一方で、腹部超音波検査に加え、内視鏡部とともに上部・下部内視鏡検査を担当しており、外来業務の大きなウエイトを占めている。



睡眠(呼吸)障害と 呼吸管理の専門診療を実践

呼吸器内科、神経内科と協力し、呼吸管理・睡眠時無呼吸外来を毎日、神経睡眠外来を月曜日に行っている。とりわけ高血圧、糖尿病、心不全等の生活習慣病に睡眠中の呼吸障害を伴うことが多く、関連各科と協力し睡眠中も含めた生活習慣病の管理に寄与している。各科との協力で呼吸管理を行い、術前術後の周術期呼吸管理を含め京大病院の先端医療に伴う呼吸器合併症の発症の予防と治療を学際的にを行い、病院全体の治療成績の向上をめざしている。

さらに、在宅酸素、マスク人工呼吸、睡眠時無呼吸に対するCPAP治療など在宅呼吸管理全般を実施している。近隣医療機関と連携・協力し、各医療機関の特色を生かした円滑な在宅呼吸管理および地域医療の構築に努めている。

代表的診療対象疾患

睡眠時無呼吸(閉塞型、中枢型)、神経内科疾患に伴う睡眠障害、高二酸化炭素血症を伴った呼吸不全、低酸素血症性呼吸不全、睡眠関連低換気、過眠症を中心とした睡眠障害、在宅酸素・在宅人工呼吸対象疾患、周術期呼吸管理、周期性四肢運動障害、Restless legs症候群など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

毎日の呼吸管理・睡眠時無呼吸外来、月曜日には神経睡眠外来を行っている

高度先進医療の推進に基づいた
新しい救急医療のシステムを求めて

各診療科の専門医が常駐している大学附属病院の長所を生かしてコーディネート型救急診療体制を整備し、ICUの拡張計画を踏まえ、重症患者に対する3次救急の拡充をめざしている。さらに重症外傷、新興感染症、臓器移植医療、熱傷、敗血症、産科救急、高齢者救急など、さまざまな状況における救急医療体制の充足を目的としたプロジェクトを関係部署と共同して推進中である。災害医療における医療救護活動DMAT (Japan Disaster Medical Assistance Team) に正式参加し、大規模災害に対する災害医療支援体制を整備。2011年に発生した東日本大震災においても、緊急医療援助隊を派遣した。

代表的診療対象疾患

救急疾患一般

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

中央診療部門のひとつである救急部では、各診療科の専門医が常駐している大学病院の長所を生かし、高度先進医療を常時実施することが可能な救急診療体制を確立している。当部には教授1名、講師3名、助教3名、医員2名、計9名の専任医師が配属され、応援医とともに救急部の運営にあたっている。また、救急外来看護師3名、専属事務員3名が配置されており、迅速かつ円滑な診療が可能となっている。2012年の救急外来受診者数は8,456人、救急車搬送台数は2,939台であった。また救急部からの入院患者数は2,111人であり、京大病院の全入院患者の約10%にあたる規模となっている。



てんかんと運動異常症の専門診療を実践

神経内科、脳神経外科、小児科との綿密な協力体制のもと、神経内科外来において、てんかん・運動異常の専門外来を行っている。てんかんに関しては、近畿地区の3次てんかん専門施設として、関連各科との密な連携のもと、てんかんの診断、内科治療および外科治療を行い、包括的てんかん診療を行っている。さらに、近隣医療機関と連携・協力し、京滋地区を中心にてんかん診療の病診連携体制の構築に努めている。

代表的診療対象疾患

発作性と運動異常の神経の病気全般をみる。具体的には、意識消失発作、けいれんをはじめとした種々のてんかん症候群（特発性および症候性全般てんかん、部分てんかん）、および、不随意運動、ミオクローヌス（びくつき）、振戦（ふるえ）、パーキンソン病関連疾患の異常運動、ジストニアなどを対象とする。

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

日本てんかん学会専門医・日本臨床神経生理学会認定医（脳波領域）を持つ神経内科専門医が、てんかん・運動異常の専門外来を行う。年間1,600人を超えるてんかん患者の外来診療を行い、また京滋地区を中心に近畿一円の病院・診療所から約200名の患者が紹介され、診断、治療方針決定、そして逆紹介を行っている。

入院診療体制と実績

神経内科と共同体制で、年間



理想のがん診療をめざして

当科は、各専門診療科・診療部門と連携して京大病院がんセンターにおける抗がん薬治療の運用が安全かつ適切に行われるよう、基幹診療科の機能を担っている。また、がん診療においては、診療科横断的および職種横断的な業務もきわめて重要であるため、スムーズな運用ができるようにその調整も行っている。実際のがん治療には多種多様な知識や技術が要求され、治療成績向上のためには、抗がん薬治療や手術治療、放射線治療を併用する「集学的がん治療」が必要となる場合も少なくないため、当科は関連診療科と連携し、集学的がん治療を実践している。

代表的診療対象疾患

胃がん、大腸がん、食道がん、膵臓がん、胆道がん、肺がん、頭頸部がん、原発不明がん、希少がん

診療体制と治療実績

沿革と診療体制

がん薬物治療科は、2013年4月に設置された新しい診療科である。2012年9月に京都大学大学院医学研究科に開設された「腫瘍薬物治療学講座」が中心となり、がんに関連する寄附講座やプロジェクトのスタッフがこの診療科に加わっている。現在は診療科長を含むスタッフ11名体制で、主に消化器がん、頭頸部がん、肺がんの診療を行っている。

がん薬物治療科のめざすべき診療方針は、京都大学がんセンターの中心的役割をなすとともに、入院・外来そして緩和とあらゆる面でシームレスかつ最良の医療を提供することである。また、原発不明がんや希



身体に優しく精密な内視鏡手術

消化管外科では、食道、胃、小腸、大腸の疾患に対して、積極的に内視鏡手術（胸腔鏡下または腹腔鏡下手術）を取り入れ、標準化できるよう努めている。内視鏡手術では、創部が小さく身体に低侵襲であるだけでなく、その拡大視効果によって、詳細な臨床解剖の理解に基づいた精度の高い手術操作が可能である。また、2011年9月よりロボット支援手術を導入し、より精緻な低侵襲手術を実践している。

診断および治療方針の決定に際しては、消化器内科、外来化学療法部、放射線科、病理診断科と横断的な合同カンファレンスを行い、個々の患者さんに



質・量ともに日本をリードする 肝胆膵・移植外科

外科診療科再編により、2006年4月から肝胆膵外科と肝移植を専門的に取り扱う診療科として、肝胆膵・移植外科が新しく編成された。高度な外科技術が要求される肝胆

眼科

Department of Ophthalmology and Visual Sciences

眼科長
吉村 長久



最先端の診療で最良の視機能を

眼科疾患は非常に多様であり、最高水準の眼科医療を提供するに当たって、疾患すべてを網羅することは容易ではない。そうしたなかで当科では、豊富な症例数とともに、網膜硝子体疾患、緑内障を中心に最高水準の医療を提供していると自負している。これらの分野では最新の機器を積極的に導入し、正確な診断と効果的な治療の実践に力を入れている。その他、神経眼科や斜視、角膜、涙道などの専門外来を設置し、専門性の高い眼科医療を行っている。

特に力を入れている黄斑外来では、加齢黄斑変性に対する光線力学療法(PDT)や抗血管内皮増殖因子(VEGF)療法と遺伝的背景の関係を

小児科

Department of Pediatrics

小児科長
平家 俊男



子ども達とともに 未来を志向する小児医療

小児期の疾患のほぼすべてを対象として、幅広い診療を展開している。外来では一般外来の他、循環器、代謝内分泌、血液・腫瘍、免疫・アレルギー、神経、未熟児、心療、小児心理外来等を行っている。移植コーディネーターや心理士、リハビリテーション部などからも協力をいただき、多面的に診療を行っている。入院では、血液・悪性腫瘍、免疫不全症、神経筋疾患が主となっており、小児がんに対する集学的治療、造血幹細胞移植、心臓カテーテル検査、ビデオ脳波、治験を通じた新薬治療など先駆的な治療法に取り組んでいる。小児疾患の特徴上、救急外来で対応すべき症例も多く、京大病院救急外来受診患者のうち小児科で1割強の患者さんを診療している。

代表的診療対象疾患

白血病、固形腫瘍、再生不良性貧血、免疫不全症、アレルギー性疾患、先天性代謝異常症、下垂体機能不全症、糖尿病、てんかん、筋疾患、後天性心疾患、低出生体重児など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

外来においては、一般・専門外来の他、がん診療部・小児脳腫瘍外来において脳神経外科、放射線治療科とユニットを形成し脳腫瘍に対する診療を行っている。外来化学療法部と連携し、がんセンターにおいて小児に対する外来化学療法を行っている。また、疾患によって思春期から成人以降の患者さんも診療を行っており、その数は全小児科外来受診者の1割を超える。また、京大病院救急外来受診者の1割を小児科単科で担当している。

入院診療体制と実績

泌尿器科

Department of Urology

泌尿器科長
小川 修



世界トップレベルの 標準・高度医療を安全性高く提供

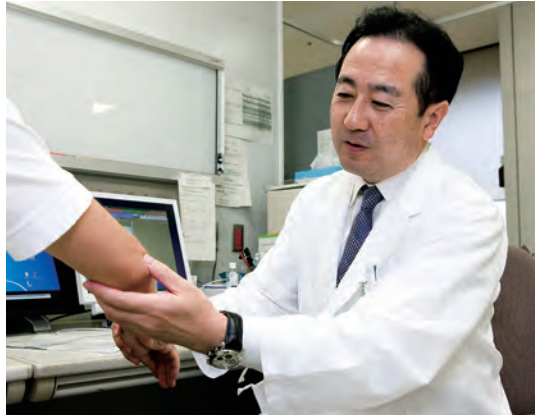
標準的な医療を安全に提供するのみならず、最先端の医療にも積極的に取り組んでいる。体腔鏡下手術を国内でいち早く取り入れた実績をもとに、近年では単孔式手術やロボット支援手術にも力を注いでいる。泌尿器科がんに対してはQOLを考えた低侵襲手術を重視し、外科的手術のみならず、放射線治療や新規抗がん剤治療などを組み合わせた集学的治療を行うことで、他施設では治療が困難な患者さんにも積極的に対応している。また、排尿障害、小児泌尿器、男性不妊症、腎移植に対しては専門外来を設置し、さまざまな臨床試験に取り組むとともに、安全で患者さんに優しい医療をめざしている

代表的診療対象疾患

整形外科

Department of Orthopaedic Surgery

整形外科長
松田 秀一



活動的な生き方を支える 運動器のエキスパート

当科は1906年に京都帝国大学医科大学に整形外科学講座が開設されて以来、100年以上の長い歴史と伝統を誇っている。開設以来、整形外科のパイオニアとして、既成概念にとらわれないさまざまな取り組みを行ってきた。例えば、人工股関節手術は今でこそ変形性股関節症に対する一般的治療となっているが、当科は日本で最も早く1970年にチャンレー式人工股関節を導入した。現在も、オリジナルの人工骨や各種人工関節、上位頸椎疾患における手術支援デバイスの開発など、日本の整形外科治療のフロンティアを担っている。

代表的診療対象疾患

頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、腰部



体の中を映像化して病気を診断、 画像を見ながら低侵襲治療

現代の医療は、高度の画像診断抜きには成り立たない。当科は中央部門である放射線部と一体になり、診療各科のニーズに応えるため、CT、MRI、PET、RI、消化管透視、血管造影、IVR等、極めて広範な領域の画像診断を担当し、さらにはイメージガイド下の低侵襲治療に携わっている。特に現代の画像診断の中心となるCT、MRI、PET等の断層画像診断では、最新のマルチスライスCT、3-Tesla MRI装置、複合型PET/CT装置等を導入し、全国の国立大学法人附属病院の中でトップクラスの

脳神経外科

Department of Neurosurgery

脳神経外科長
宮本 享



脳機能の温存・再生へと 最先端医療に挑む

京都大学脳神経外科では、“For the Patient(患者さんのために)”を旗頭に、治療困難な脳神経疾患に対する最先端医療を提供し、その治療成績はトップレベルである。十分なインフォームド・コンセントの上で新たな治療法の開発にも取り組み、国内外の治療体系をリードしている。他施設との共同臨床研究、ES・iPS細胞による再生医療、ロボットテクノロジーによる機能再生、最先端の基礎研究から臨床研究への応用も推進している。

代表的診療対象疾患

I. 出血性脳血管障害
脳動脈瘤、脳および脊髄動静

リハビリテーション科

Department of Rehabilitation Medicine

リハビリテーション科長
松田 秀一



疾病からの社会復帰 在宅復帰に取り組む専門家集団

2012年3月1日に松田秀一教授が診療科長に就任し、ほぼ全科からのリハビリテーション依頼に対応している。当科は、疾病、長期間の医学加療、手術によって患者さんが受けたdisabilityとimpairmentを評価し、その社会的handy capを少なくするために、各患者さんが必要とするリハビリテーション療法を処方し、それが適切に遂行されているかをチェックし評価している。

代表的診療対象疾患

運動器、中枢神経、呼吸器、循環器疾患を中心に行っている。

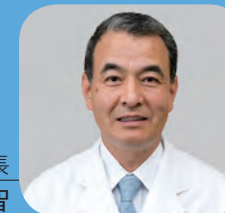
診療

中央診療センター等のご案内

検査部

Clinical Laboratory

検査部長
一山 智



高度医療を支え先進の臨床検査を実践する

当部では、国際規格の臨床検査室認定ISO15189 2012を取得し、高度医療を支えるために幅広い臨床検査を実践している。24時間365日の緊急検査体制や外来患者の診察前当日検査の実現、さらに超音波センター開設など、診療サービスの向上に取り組んでいる。具体的には主に以下の業務を行っている。

①先進医療・臨床研究のサポートをするために検体検査部門では、検査の迅速報告と業務の効率化および低コスト化を実現し、診療支援と臨床研究支援のシステムを構築 ②感染症診療の情報源を担い、感染制御部との密な連携 ③生体検査の生理機能検査は、超音波検査センターおよび睡眠脳波検査の拡充と循環機能検査と神経機能検査の充実 ④遺伝子細胞検査は、移植医療の支援と遺伝子検査によるがん診療の貢献 ⑤品質管理委員会による品質マネジメントシステムの継続的管理（検査データの精度保証）

業務内容の特徴と実績

当院の責務に貢献できる体制

臨床検査業務を行う検査部は、中央診療センターの主要部門として、当院が果たす地域医療機関としての役割、最先端高度医療の推進および教育機関としての責務に貢献できる体制を整え、ISO15189 2012認定取得に伴い治験管理業務への貢献やiPS細胞研究所との連携も期待される。検体検査を統合するシステム検査（自動化検査）部門、心電図など生体検査を行う生理機能検査部門、院内統合された超音波検査センター、感染症の原因を明らかにする微生物検査部門、そして免疫不全症や造血器悪性腫瘍の診断に必要な検査等と行っている遺伝子細胞検査部門と診療科が所有する検査機器のメンテナンス対応など、柔軟な検査体制を構築

手術部

Surgery Unit

手術部長
宮本 享



高度な手術を より安全に提供する

手術部では、清潔な環境の維持と感染の防止に向け、無菌手術室（NASAクラス100）2室、ハイブリッド手術室（血管撮影装置支援手術室）1室を含む計17室を保有している。手術用材料並びに機器については、内視鏡下手術装置、手術支援ロボット（da Vinci）、手術用顕微鏡、Cアーム形X線撮影装置、各種医用レーザーを装備。滅菌器具を迅速かつ安定に供給できるように、コンテナ導入による手術器具のセット化と自動搬送装置による回収に努めている。また、麻酔記録、看護記録の電子化を進めている。

代表的診療対象疾患

集中治療部(ICU)

Intensive Care Unit

集中治療部長
福田 和彦



重症症例治療の砦

集中治療部は、呼吸、循環、代謝等、原疾患を問わず、急性臓器不全に陥ったあるいは陥る恐れのある患者さんに対し集中的な治療および看護を行う部門であり、当院では1986年に開設された。現在は中央診療棟4階に10床を有し、中央手術部とは内部通路で連結している。全病床に集中治療加算が適応されており、日本集中治療医学会による集中治療専門医研修施設の認定を受けている。本集中治療部は開設以来、京大病院の高度外科手術の術後管理ステーションとして、また多診療科にわたる高度医療の連携センターとしての機能を担ってきた。専従の医師と看護スタッフを配し

臓器移植医療部

Organ Transplant Medical Care Unit

臓器移植医療部長
海道 利実



日本の移植医療をリードする 臓器移植医療部

各科医師とコーディネーターやコメディカルが連携するチーム医療体制で、肝移植（生体・脳死）、脾・脾島移植（生体・脳死）、小腸移植（生体・脳死）、肺移植（生体・脳死）、腎移植（生体・脳死）の相談、説明、術前評価、登録、術前管理、脳死移植時の対応、術後中長期管理やケアなど、移植に関するあらゆる業務を行っている。

代表的診療対象疾患

肝移植（胆道閉鎖症、代謝性肝疾患、急性肝不全、ウイルス性肝硬変、胆汁

遺伝子診療部

Clinical Genetics Unit

遺伝子診療部長
平家 俊男



遺伝カウンセリングを もっと身近に

遺伝子診療部は、遺伝や遺伝子に関するあらゆる相談を受け付ける部門。臨床遺伝学の専門医を中心とするスタッフが、チームで遺伝カウンセリング(情報提供とそれに基づく支援)を行っている。最新の遺伝医学の知見に基づいて一人ひとりに合った情報を提供し、遺伝子検査については必要性も含めて一緒に検討していく。相談にいらした方にとって分かりやすく、丁寧な説明を納得いただけるまで行うよう心がけている。遺伝の問題は、時に家族間で情報を共有する必要があることから、疾患に直面している患者さんのみならず、支えているご家族の相談にも対応。遺伝の問題を共に考えていく。

代表的診療

病院運営企画室

Office for Hospital Strategic Planning

病院運営企画室長

黒田 知宏



大学病院の使命を実現する シンクタンク

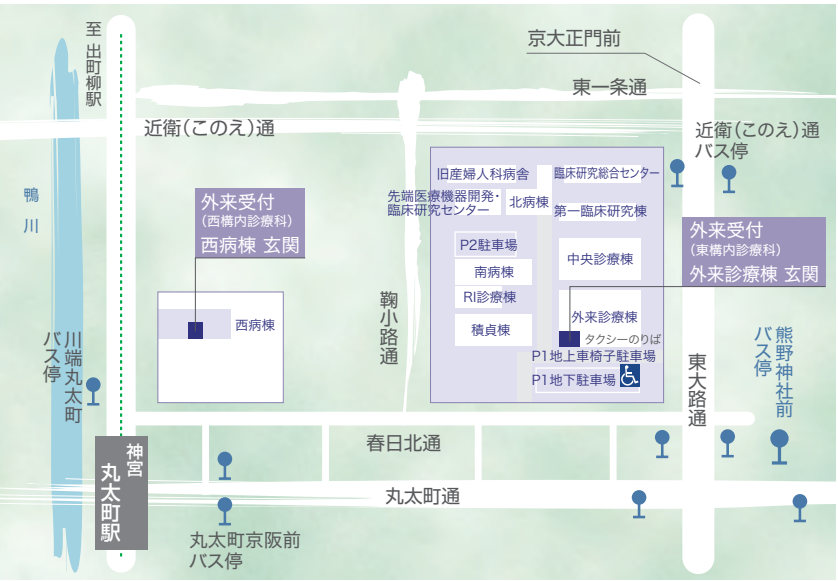
財政や政策をはじめとした医療を取り巻く環境の変化とともに、医療への国民の期待はますます多様化している。病院運営企画室は、経営基盤の安定を通じて大学病院としてより高度な医療・医学研究・医学教育の実現をめざす院内シンクタンクの役割を担っている。

業務内容の特徴と実績

経営担当副病院長を含む教員および経営管理課・医務課・新病院整備推進室事務職員で構成する、常設の病院長諮問機関である。週一回の定例会議を中心に、総合的な病院機能の向上に寄与する計画を策定している。

- ①財務分析および業務・市場分析に基づく各種の経営に関する予測を行っている。これらに基づき、病院長の諮問による経営計画を立案するとともに、分析および予測に必要な調査・研究も行っている。各種経営管理指標の調査・設定・分析を行い、これらに基づく病院経営に関する企画立案をしている。
- ②経営安定に不可欠となる病床稼働率向上のために、ベッドコントロールセンターを創設し、活動を支援している。
- ③診療科(部)別運営カンファレンスを企画・管理し、病院執行部からの要請を各部局に伝え、また各部局のニーズを汲み、病院執行部などに伝える役割を担っている。

構内配置図 交通機関のご案内



- 京都駅(D2バスのりば)から
市バス 206系統 東山通「北大路バスターミナル」行き
- 阪急河原町駅(四条河原町バス停)から
市バス 201系統「祇園・百万遍」行き／203系統「祇園・錦林車庫」行き／
31系統 東山通「高野・岩倉」行き
- 地下鉄東山駅(東山三条バス停)から
市バス 201系統「百万遍・千本今出川」行き／202系統「熊野神社・西ノ京円町」行き／
203系統「東天王町・錦林車庫」行き／
206系統 高野「北大路バスターミナル」行き／31系統 東山通「高野・岩倉」行き

いずれも熊野神社前下車

京都大学医学部附属病院
ガイドンス 2014

2013年12月発行

発行	京都大学医学部附属病院
住所	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
電話番号	075-751-3111(代)